
父の背中

明鏡院ワタル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

父の背中

【Nコード】

N2358L

【作者名】

明鏡院ワタル

【あらすじ】

ショートショート第一作目。

「気晴らしに、山にでも登らないか」

そう声をかけてくれたのは父だった。

特に乗り気ではなかった。疲れるし、家を出ることさえ面倒くさい。それでも退屈だったし、何より少年のような笑みを浮かべつつも人生の先輩としての威厳を絶やさない父の瞳を無視することができず、俺は重い腰を上げることにした。

早速ながら、クーラーの効いた畳の部屋が恋しくなってしまう。

傾斜のある山道は駅や学校の階段とは違った重みがあり、一步一步が辛い。

「ほれ、地球がお前を引っ張っているぞ。負けるな負けるな」

50を過ぎた父が軽々と登っていくのを尻目に息を切らせる俺。

「地球が引っ張る……ねえ」

「そうだ。地球はこんなに強い」

「親父は楽々登ってんじゃんか」

「そうだ。お父さんはもつと強いぞ」

木々は山道に暗い影を落とし、辺りはじめじめとした空気に満たされている。

重力に引かれ、柔らかい腐葉土の地面に足を取られそうになりながら、かろうじて踏ん張った。

汗ばんだ背中にシャツがひつつき、服の中に熱がこもる。

「お前が何に悩んでいるのかは知らん。逃げているのか戦っているのかも知らん。お前は高校に入ってから、学校のことはさっぱりお父さんに話さなくなったからな」

「もう俺も17だ。それくらい、どうにかするさ」

まったく。いつまでも子供扱いするんだから。

もう俺の身長は父に追いついている。だが、俺の先を歩く父の後姿は傾斜のせいか大きく見える。追いつこうと小走りしてみるが、

すぐに疲れて止まってしまった。足を早く動かそうとすればするほど、地球が俺の邪魔をしてくる。

心臓が頑張って体を保とうとするも、呼吸が乱れて体温が上昇する。常に一定のペースで俺の前を進み続ける父との距離が、少し伸びてしまった。

「ま、待ってくれよ」

ぜえぜえと息を吐きながら呟く。本当はもっと大きな声でそう言いたかったのだが、まともな声はしばらく出そうになかった。

湿っぽい空気を思い切り吸い込んでみる。それはひんやりしていて、思っていたよりもずっと爽やかだった。

静かに吸って、吐いて。

体中に染み渡る、純粋な心地よさがあった。

「よし」

すでに視界の先に行ってしまった父を追って、もう一度歩き始めた。

鬱蒼と茂る木々による緑色の闇と、物音一つしない静寂さを今は不気味とは思えなくなった。闇は真夏の突き刺さるような日差しから守ってくれるやさしい屋根。そして耳をすませば鳥の声がして、木の葉がざわめく。

立ち止まってみて、余裕ができたのかもしれない。ついさっきまでは気付こうともしなかったものたちが、次々と俺の五感に飛び込んでくる。

ふいに光が差し込む。

木々の海が晴れ、目の前には太陽を照り返して揺れる草原と青い空。

逆光から浮かび上がる影が俺に声をかける。父だった。

「見ろよ」

父の指差す先にはどこまでも山々が連なり、雲ひとつない空が広がっていた。

色濃い緑は夏の日差しを浴びて、力強く映えている。

どこまでも伸びていく鳶の声に、空の広さを教えられた気がした。

（後書き）

父の日のために書いてみました。今までは別サイトでエンターテイメントものばかり書いていたので、久々の文学チックな作品になります。

あまり詳しく書き込んでいない上にこの短さ。何が言いたかったのか解らない読者さんも多いと思います。どうぞ自由に解釈しちゃってください。何でもいいので、『何か』が皆様の心に残ることを願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2358/>

父の背中

2010年11月14日01時53分発行